



特長

- モニタリングポイントでのAC電源の配線コストが不要に
- LANケーブル配線があればどんな場所にも取り付け可能
- サーバルームの無停電電源装置（UPS）によりデータ通信を停電から保護
- viewLincのAware機能を使用すれば、電源を入れるだけで稼働

ネットワーク通信の信頼性とコストが重視される中、Power over Ethernet（PoE）デバイスを採用する企業が増えています。ヴァイサラ vNet PoEネットワークインターフェースは、他のネットワークデバイスよりも低コストで、ヴァイサラDLシリーズデータロガーとの接続を可能にします。

スナップイン方式の採用により、データロガーとPoEロガーインターフェース間の配線がなく、ワンタッチでデータロガーと接続できます。また、電力とデータが同一ケーブルで送信されるため、AC電源の設置が不要です。

vNet PoEロガーインターフェースは、精度を損なうことなくヴァイサラ VL・SPロガーと一体化します。そのため、ヴァイサラ環境モニタリングシステムの設置がよりフレキシブルで簡単になりました。

viewLincモニタリングソフトウェアのAware機能により、単体または複数のデータロガーの設定が迅速に実施できます。vNetクレードルにデータロガーを装備するだけでLANに接続され、viewLincはデータロガーを検知し設定します。

vNet PoEロガーインターフェースは、4つのモデルからお選びいただけます。

- CDL-VNET-P：データロガー用ファア1台。内部温度チャンネル1個。
- CDL-VNET-LP：データロガー用ファンなし。内部温度チャンネルなし。
- CDL-VNET-PC：外部センサと変換器用15V出力。内部ファンあり。
- CDL-VNET-LPC：外部センサと変換器用15V出力。内部ファンなし。

オプションでインターフェースの電源をACからとることもできます。温度、湿度、CO₂、差圧、ドアスイッチ等のモニタリング・記録に適した製品タイプをお選びください。

技術情報

計測性能

計測時発熱影響

CDL-VNET-P、CDL-VNET-PC	電子回路部からの発熱 (内部センサ搭載データ ロガーに影響): < 0.05°C
CDL-VNET-LP、CDL-VNET-LPC	内部センサ搭載データロガーに 適用不可

動作環境

動作温度範囲	-25~+70°C
保管温度範囲	-40~+85°C
動作湿度範囲	0~90%RH (結露のないこと、 混合比 38.5g/kg以下)

入出力

イーサネット接続	IEEE 802.3af (クラス 1) ¹⁾ 、 帯域幅 10Base-T
接続ケーブル	カテゴリ 5/5e RJ-45コネクタ 1.83m
動作電圧範囲 ²⁾	12~30VDC プラグは vNet 12Vジャック

出力電圧

CDL-VNET-P、CDL-VNET-LP	適用外
CDL-VNET-PC、CDL-VNET-LPC	公称: 15VDC 最大: 350mW

消費電力

CDL-VNET-P、CDL-VNET-LP	典型値: 625mW 最大: 700mW
CDL-VNET-PC、CDL-VNET-LPC	典型値: 900mW 最大: 1.35W

電源 ³⁾

北米	最大出力 12VDC/0.5A 入力 120VAC
グローバル	最大出力 12VDC/1.66A 入力 100~240VAC

- 1) PSE最大予備電力は 4.00W。
- 2) PoE非使用時オプション。
- 3) PoE非使用時の場合。

一般仕様

寸法 (高さ×幅×長さ)	43×102×102mm
質量	180g

全般仕様

データロガーの互換性	v6.00ハードウェア以降 対象モデル: VLおよび SP1000、 1700、1200、1016、1416、 1400、2000、4000
LEDインジケータ	リンク、アクティビティ、 電源、データロガー通信
デバイス構成	HTTP Webインターフェース PC設定ウィザード
viewLinc Aware機能	vNetをviewLincサーバーの IPアドレスで接続する必要が あります。サブネットにある他の vNetは自動的に設定されます。
アドレス割り当て	DHCP/RARP ARP-Ping 固定 IPアドレス NetBIOS名
ファームウェア	フィールドアップグレード可能 ファームウェア
適合規格	FCC Part 15および CE EN 50581:2012 EN 55032:2012/AC:2013 クラスB EN 61326-1:2013
エミッション/イミュニティ	
準拠	RoHS、2011/65/EU WEEE

